

武蔵野市の将来を考える市民会議(第5回)議事録

日時：平成 22 年 9 月 28 日（火） 午後 7 時～ 9 時

場所：かたらいの道・市民スペース

次第

1．開会

2．議事

（１）武蔵野市の将来像について

まとめについて

3．その他

<配布資料>

次第

資料1 委員からの意見について

<参考資料>

参考資料1 武蔵野市の将来を考える市民会議 傍聴者アンケート 第4回 集計結果

1. 開会

○事務局（企画調整課長） それでは、定時でございますので、第5回武蔵野市の将来を考える市民会議を開催させていただきます。第5回、当初のお約束どおり、これが最終回でございますので、今日は忌憚のないご議論を再度お願いいたします。

議事としまして、「武蔵野市の将来像について」の「まとめ」と書いてございますが、先ほど申しましたように、改めてご意見をいただきたく思っております。配布資料につきましては、資料1としまして、委員の皆様からのご意見、それから参考資料としまして、第4回での傍聴の方のご意見をお配りさせていただいておりますので、ご参照いただきたく思っています。今日の位置づけでございますが、今までの議論の中で3つのフレームに沿ってご議論をいただいてまいりました。途中でも委員の皆様からのご意見があったかと思っておりますが、最後にもう一回まとめの包括的なご議論をしたいというご意見もございましたし、最後に報告書について委員の皆様で別途まとめの会を開き検討を行うというご意見が前回ございました。報告書をまとめる作業があるとしましても、傍聴の方もいらっしゃる前で、いままでも皆様からいただいた意見を踏まえて、再度、武蔵野市の将来像についてのご議論が必要だというふうに判断しているところでございます。本日は、報告書にまとめることも念頭に置いていただきながら、このような公開の場でご議論をいただき、それを踏まえて報告書の作成をさせていただきたいと考えてございますので、その点もお含みおきいただきながら、ぜひ忌憚のないご議論をよろしくお願いいたします。

2. 議事

(1)武蔵野市の将来像について

まとめについて

早速ではございますが、まず報告書云々というよりも、今までで足りなかった観点、もしくはここで再度強調しておきたいという点につきまして、ご議論いただきたく思います。どなたかいかがでございましょうか。

○A委員 今までいろいろな議論があって、そうした中で、例えばコミュニティの問題などは非常に重要なので時間をかけてきたかと思うんですけども、いざ過去の議事録等を見て、議論として余りに当たり前のことについて余り触れられていなかった部分というのが幾つかあるかなと。それについて、特に3点ほど申し上げておいたほうがいいかなと思っているのがありますので申し上げます。

1つは、少子化対策の話なんですけれども、これは少子化対策が必要だというのは自明のことかなとは思いますが、過去の議論の中で、I委員ですか、行政が先導してみたいなこともおっしゃられておりましたけれども、コミュニティのところでもちょっと出た議論なんですけれども、少子化対策というのは非常に重要で、武蔵野市のこれからの子供たちが今後の武蔵野市を背負っていくという観点からすると、例えば本当は少子化対策ということだけでいうと婚姻の低年齢化とか、あるいは婚姻促進みたいなことのほうが効果がある部分があるんですけれども、例えば子育てのサポートとか、市でできることいっぱいあって、私が嫌いな映画でトモローワールドという映画があるんですけれども、それは子供が生まれなくなった社会を描いた映画で、子供が生まれなくなって、世の中がどんどんすさんでいくんです、人の心が。武蔵野市にそういう子供たちがいっぱいいる社会をつくるためにも、市でできることというのはしっかり重点施策として少子化というのは取り組んでいくべきではないかと思うのが一点。

それから、2点目としましては、男女共同参画の関係なんですけれども、余り今までワーク・ライ

フ・バランスの話はされていなかった。ワーク・ライフ・バランスという言葉自身は私は余り好きではなくて、ワークといういいものと、ライフという個人の遊びのものみたいなバランス感覚で何となくイメージを持たれてしまうんですが、そうではなくて、ワークというのは個人の収入のための個人の利益のための部分があって、もちろんワークで税金を払ってとか、社会貢献、仕事を通じてというのはいっぱいあるんですけども、そういう個人のためのワークと、それから、地域貢献ですとか、介護ですとか、さっき出てきた子育てですとか、こういう社会に対して果たす責任としてのソーシャルレスポンスビリティ、それがしっかりバランスがとれる社会というのを目指すべきだと。ワーク・ソーシャルレスポンスビリティ・バランスの社会、これを追求していくということは一つ意見としてぜひ言っておきたいなというふうには思います。

3点目ですけれども、行政の役割の関係で、私も市民が行政に頼り切るのはよくない、よくないと言っておったんですけれども、どうも過去そういう発言ばかりしてきたかな。それはそれでちょっとバランスが悪いなというふうに思っていて、一方で、どうしても市が市民を安い労働力みたいにして使ってしまう部分というのがなくはないところも市の中に一部あるようにも思えますので、そういう市民を安価に使うという発想にならないようには注意する必要があるんじゃないか。要は市民が覚悟を持って市民自治をするんだということを、市民利用の根拠みたいにしてはいけないんだらうということも改めて言わせていただきたいなというふうには思います。

今回のいろいろな議論に参加させていただいて、そもそも自治とは何だろうとか、市民参加、あるいは市民の意見と、市、お役所、行政側の観点、ノウハウと、あとは代表、代議員であります議会との関係、こういったものというのはどう考えていけばいいのかなということを含めて、例えば自治基本条例の制定を検討、やるべきだとまでは言いませんけれども、そういったことをどう考えるのかという検討も含めて考えていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

以上3点は是非、今日言わせていただければと思います。

○事務局（企画調整課長） 一つ問題提起をいただきましたが、他の問題提起もあろうかと思いますが、それも含めてなんですが、どうでしょうか。今のA委員のご意見に対してでも結構でございますし、議論を深めればと思っております。

○B委員 そういうことでいいますと、（報告書（案）の）7ページのところからの、7ページの「平和」の部分については、時間の関係もあってほとんど4回までには発言していなかったのですけども、ここのところはもう少しちゃんと入れておきたいと思っております。

それと、その後の「3. 市民自治・市民と行政の協働」というのを何度も読み直したんですけれども、市民と行政の協働というのは、市民側からと行政側からと、両方見られる部分がありますので、「市民と行政の協働：市民」というところと、「市民と行政の協働：行政」というところは一つにして、「市民と行政の協働の基本的考え方」みたいなことにまとめてはどうかと思います。

その後、「市民と行政の協働：市民のレベルアップ」、「市民と行政の協働：行政のレベルアップ」、「市民と行政の協働：行政のサポート」というのは、このような項立てで結構なんですが、多少入れかえをしたほうがわかりやすいのではないかなというようにところで、7ページ、8ページ、9ページについて、とりあえず試案を出しているんですが、お配りいただいていますか。

○事務局（企画調整課長） 今の時点のたたき台のベースにはなっていると思うんですが、まとめ方云々はまた別にとっておりますので、問題提起をお願いいたします。

○B委員 この中身を大幅に変えているわけではなくて、多少組みかえたということでご理解いただきたいと思います。市民と行政の協働、ほとんどこのままで、少し言葉を追加したところがありますが、

全体としては順序を変えたというような意味での整理なんです。お配りいただいた方がわかりやすいかと思うんですが。説明は後で。

○事務局（企画調整課長） それは報告書としてまとめる段階でということになっているのでしょうか。書き物としてまとめる文言等はいろいろ委員の皆様からいただいていますので。

○B委員 このところの言葉に今の案に沿ってお話するということですね。

○事務局（企画調整課長） 今日は案に沿っていただかなくて結構でございます。

○B委員 この中で、私は、さっき申し上げたように項立てを少し変えたという中で、つけ加えている部分などを今ここで申し上げておいたほうがいい、そういうことですね。それは後ほど整理して申し上げます。

「平和」の部分について言えば、これは申し上げたように思うんですけども、市民生活が豊かに持続するということの大前提が平和であるということで、国ではなくて地方自治体が行う平和施策ということは、今、平和施策懇談会で検討中ではあるんですけども、その辺についてこの事業だけではなくて書き込んでほしいということです。特に市民の平和活動へのサポートも重要だと思っています。市がどういうイベントとか、平和についての事業をするかということと同時に、市民の平和活動へのサポートも重要だと思っています。

協働のところについてはもう一回後で整理します。

14ページ、15ページのあたりの、吉祥寺と武蔵境があって、三鷹がないといったところは、現実ここで話が出ていないということなんですけれども、この辺是三鷹についてどなたか話したいものをお持ちの方がいらっしゃったらつけ加えたほうがいいのではないかと思います。私は自分の住まいが吉祥寺なので三鷹については強い思いはないのです。軽い思いはありますけれども、そこら辺は当事者の方々。

16ページの「（８）未利用地・低利用地の有効利用」のところの３つ目の○なんですけれども、このところは誤解がない表現ということで少し変えていただきたいと思います。遊休市有地の利用方針について地域で考えて提案した場合、市は市民が考えたことを尊重する姿勢が欲しいといったようなことです。最後のところの市職員の意識改革をすべきであるというのも、私はそういうことは言っていないと思うのですが、この辺の表現も訂正する必要があると思っています。書き直す必要があると思っています。

それから、18ページの「（３）の行政運営：チェック」のところで３行書いてあるんですけども、そのことに続けまして、予算書、決算書など、財務資料を素人の市民が理解できるようなものに改定していくことを一応望みたいと思っています。

余り具体的なことは書き込まないというふうに私も思っているんですけども、ここで言うておかないと多分触れられないようなところについては、例えば今の部分などは入れさせていただきたいと思っています。

とりあえずこれだけで、後で協働のところはもう一度申し上げたいと思います。

○C委員 今、A委員から先ほど「男女共同参画」の括りの中にワーク・ライフ・バランスを盛り込んでどうかというようなお話があったんですけども、どんなふうにまとめられるかはまだわからないと思うんですけども、この話し合いのフレーム案のところを見てみますと、男女共同参画というものが、「ライフスタイル・教育」の中に括られていて、男女共同参画を、例えば女性が働きやすい社会にするとか、それから男性の地域参加を進めて男性の意識改革をしていくというようなことが、私なりほかの方が会議の席上で話しになって、それは確かにそうなんですけれども、ただ、問題をそれだけに

するのではなく、市政、いろいろなことに、男女共同参画という言葉が余りこなれていなくていい言葉ではないと思うんですけども、男性も女性もというようなところが主流化されるというんですか、そういう感覚をもっと、人権にかかわる問題でもありますし、根本の考え方をそういうところを盛り込んでいくという、そういうつもりの男女共同参画というところもあればどうかと。例えば市の職員の管理職の男女の比率は4%以下で、非常に少ないんです。課長以上の女性職員の方というのはほとんど少ないという。極論すると数えるほどみたいな形で、依然として男社会である。そのように、まずいろいろなことの規範となって進めていただきたい市の職員ですらもそういうふうな形であるということから見て、やはりまだまだ、普段すごく差別されているとか、そういうこともないとは思いますが、やっぱり男社会で動いているところがありますので、そういうところからどんどん意識を改革していただきたい。市政すべてにおいて考え方を、哲学というか、ポリシーというか、そういうふうな形で持っていていただきたいというふうに考えます。だから、それをライフスタイルだけに閉じ込められてしまうと、それはあなたのライフスタイルでしょうということに、そういうふうなニュアンスを持ってしまうので、もっと違う、もう少し上のレベルの話で盛り込んでいただけたらというふうに、議事録等を読み返して考えました。

以上です。

○事務局（企画調整課長） いかがでございましょうか。

○D委員 私もこれで5回参加させていただきました。具体的な提案の前に、人間というのは切り口が違いますし、考えていることが違うんだと。本当に10人寄れば10人だけに難しいなというふうに感じています。武蔵野市を良くするためには、まちづくりのためには、樹木を植えたり、それから吉祥寺のまちのつくりとか、それから自転車道路とか、ハードの面の提案もあったんですけども。

私は、サラリーマン時代に、都立大学と目黒、それから武蔵野、仙台、山梨、浜松、会社の都合で転勤させていただきました。アパートからマンションから社宅、立派な社宅から5LDKとか、立派な、隣近所には王選手も住んでおりました。今思えばどういうまちが良かったかなというのは、美しい仙台の広瀬川が近くにありましたけれども、甲府も山が見えてすばらしい環境だったんですけども、そんな思い出は全くないんです。私は変わり者かもしれませんが、ただ今思い出にあるのは人なんです。つき合い、特に向こう三軒両隣、近くの、この人たちがすばらしい人が住んでいると良かったな、住めば都という言葉を出すんですよ。私の近くにも、みなみらんぼうさんとか、ちょっと行けば菅さんが住んでいて、有名人が近くに住んでいるとか、それから、家が大きいとか、道路が広いものかということは大した問題ではないんじゃないか。私はつくづく思うんです、この年になって。

それは人間だから欲だから、道路を直せば今度は歩く歩道にせえということで、欲が無尽蔵なんです。やっぱり残っているのは向こう三軒両隣、この人たちとうまくいく。私は幸いいい人ばかりに恵まれていい思い出になっているんですけども、よく話を聞くと、やっぱり特に隣近所の問題が大きな問題らしいんです。それをよくするためにはどうしたらいいかというのは、前もHさんが言っておられましたけれども、人と人との共感、共感運動です。市はお金がかかるわけではないし、極端な例をいえば、土木課とか建築課を縮小して、娯楽課とか、遊び課というものをつくって、市民が、向こう三軒両隣だけでいいんです、これをうまくコミュニケーションをするということを積極的に市はやっていく。そういう市が最終的には生き残るような気がするんです。

難しいのは、私も犬の仕事をしていますと、犬をうちも預かっていたんです。2頭ぐらいたと仲良くするんです。3頭だとけんかします。4頭だと殺し合いします。人間も同じです。おれだ、おれだと。要するに10頭になるとみんな意見が違いますから、ここもそうです。私ある時期里親でビーグル犬を飼

いました、保健所に連れていくというからかわいそうだからうちで飼ったんです。これは私の家内と私だけは触れるんですけども、うちの子供が時々来るんですけども、触れない。牙を向いて触れないんです。それはなぜかという、子供たちが怖がっているから犬も怖がっているんです。犬というのはそうなんです。こちらが怖がらなかったら犬も安心するんですけども、だけれども、例外がありますけれども、頭がキレている犬はがっとかんできます。だから、人間も犬も大体同じような気がしてしょうがないんです。だから、隣の方も、こちらが構えるから相手も構えるのであって、こちらが構えなかったら相手も構えない。例外もありますけれども、私は、共感、要するに音楽会とか、マラソン大会とか、お祭とか、そういうものをたくさんやる。

よく今市の方がこれから日本の将来に向かうまちの理想はスウェーデンにあるとか、ノルウェーにあると聞いていますけれども、私はアフリカにあると思っています。原点はアフリカの原住民にあると思っています。あそこは地域地域にボスがいて問題が起きない。年寄りを敬って、まして子供が親を殺す、親が子供を殺すなんということは一件もないそうです。だから、原点はアフリカ、もう一回元に戻って、コミュニケーションを深くする、それに全力投球する。

最近新宿とか品川に行くんですけども、違和感を感じていられないです。私は年をとっているかもしれないけれども、だけれども浅草に行くと落ち着くんです。建物というのは、そんな大きな問題ではない。最終的にはそこに住む共感、共に感じる運動を起こして、それを市が、お金がかかるわけではないですから、積極的に取り組む市づくりをつくったほうが、男女どうのこうのということもありますけれども、最終的には話し合う機会を多くする。

私も今回こんなところに来て自分の意見で市が動いてくれるとは思っていません。どういう意見の人がいるのか、私と違った波長の人がいるのかということを私は確かめに来ただけなんです。たくさんこういう会を、オブザーバーの人たちが入って次はという形で、市民全員13万人ぐらいいるんですか、全員巻き込んで、孤立を避けるような運動を、お金がかかるわけではありませんので、そういうまちづくりをしたほうが将来、5年、10年後にはいいと思うんです。将来を考える市民会議に出て、ちょっと長くなりましたけれども。

その原住民が言ったんです。百回の論議よりも一回の実践だと。アフリカのおじいちゃんが、百回論議なんかするより一回実践しようということを、アフリカの原住民のリーダーが言ったそうです。私は、論議すればするほど底に入っていくという考え方なんです。それよりもその中の一つをやってみようという考え方で進めていただきたいなということを、この5回の会議で感じました。

以上です。

○E委員 私からは問題提起3点させていただきます。まとめ方についてはまた別途話したいと思います。

まず1点目なんですけれども、Dさんが実践の重要性を今おっしゃってくださって、でもその前に話し合う機会はどういう意見があるのか確かめる機会は重要だということをおっしゃってくれました。私もそれは第3回の会議で申し上げたことなんですけれども、市民参加とか、地域をどうするかという問題について、報告書（案）ではコミュニティの問題を中心に掲げていますけれども、私が申し上げたように、市民参加、市民委員会とか会議とか、そういった場は無作為抽出でまず市民に知ってもらう機会、そういった機会を設けてはどうかというのが1点目の問題提起です。

2点目は、広域行政です。それは例えば報告書（案）を見ると、市の中についてのことをほとんど中心に書いております。私は、武蔵野市が今後10年の計画を考えるに当たっては武蔵野市だけに閉じこもってはだめだと思うんです。ほかの市との連携というものが人々が安全に快適に暮らすために大事だと

考えております。例えばそれは私だけの考え方だけではなくて、報告書（案）に廃棄物行政について広域的な対応が必要であったり、水道においても都営一元化を見据えていけないといけな。そういった面で、市のことだけではなくて、広域的な視点というものを報告書（案）に盛り込むべきではないかというのが問題提起の2番目です。

3番目は、協働について、よく市民と行政の協働については皆さんからいろいろな貴重なご意見をいただいたと思います。でも、私はもう一つ協働の主体があると思っています。それは事業者です。例えば武蔵野市はごみ問題、今セカンドステージごみ600グラムで協働の主体として市民と市と事業者もちゃんと念頭に置かれております。ほかに、例えばまちづくり条例についてもこの会議で話し合われてきましたけれども、そこでも事業者の存在というものは重要視されております。そういった中で、協働の主体として武蔵野市は事業者を意識すべきではないかと考えております。これは武蔵野市だけにいえることではなくて、日本の公共サービスにおいて、介護であったり、教育の問題であったり、企業が新しい公共として公共分野に飛び込んでいく。協働の主体として出ていく。それが私は肝心ではないかと思っております。そうした意味で、報告書（案）にそういった協働の主体として事業者も盛り込むべきだと私は考えております。それが3番目の問題提起です。

以上で終わります。

○F委員 私は、この報告書（案）に思いついたことを書き込んでありますので、これは後で置いて帰ります。

その中の割合大きな話だけにしますが、前にも私が申し上げたように、少子高齢化です。高齢化の問題はもっと深刻にとらえてください。これは本当に老人を優しく徹底的に世話したら次の世代は破滅します。これは数えてごらんください。人手もみんなそっちにとられますし、それからこれにかかる金はどんどん増える。だから必ず破滅します。よく考えて、私は老人の立場で、後の世代が成り立つように考えたい。ですから、申し上げたように、介護については余り甘くし過ぎないように。

それから、尊厳死というのをまじめに考えたらどうですか。これは死ぬほうも尊厳死のほうは僕は幸せだと思うんです。尊厳死協会に入るとまた毎年1万円とられるとか、利息を何にもくれない状態で毎年払うというのはだんだん嫌になってくる人が多くなります。市長さんが尊厳死の証人になったらいいんです。市長に届けておいたらあの人は尊厳死だと扱われれば気楽でいいです。例えばリバースモーゲージとあるでしょう、跡継ぎがいなくて資産を預ける。ああいうのを市でやれるわけでしょう。尊厳死もやれるんじゃないかと思うんです、あれは私的なものですから。証人がいればいいんです。

そんな話で、余りそこに手をかけ過ぎなさんな。かけるなら子供のほうです。そのかわり子供の教育はしっかりやってください。今のように、みんな怒るかもしれませんが、日教組に預け放しの教育はいけません。あなた方の将来、今、中国がやってきているでしょう。教育の中に国防の思想が全く入っていないんです。だから、何かあったときにうろたえるだけです。あなた方も何をしたいかわからないでしょう。うろたえるだけです。そうすると処置のしようがない。お隣の韓国を見てごらんください。徴兵制度が残っている。それから、だからいつでも戦える。今度は軍備拡張をやります。危機感があるんです。

若者の緊張感が違うんです。韓国何とかと、俳優が何かみんなもてたりするでしょう。あれは韓国人の男性のほう引き締まっているんです。女性から見たらだらっとしている男性よりも締まっている男性のほう受ける感じが違います。だから、まちを歩いてごらんください。若者で口をぴっとしめているのは余りいないです。ぼわっとあいている人が多い。これは昔は絶対そんなことはなかった。危機感があって、徴兵があり、何があり。生きるのも大変だったんですから。しっかり働かなければいけないと

いうので、小さいときから一生懸命やっていますから口がしまっていました。今はぼわっと、見てもらなさい、どのぐらいの割合か。

そんなことで、教育というのは現実をよく踏まえて、要するに優しく育てるだけではだめですよ。だから、まず先生方に頼みたいのは、競争を教えなさい。それから、人に奉仕すること、我慢すること、努力すること、そういうことを教えなさい。学校はそれをほとんど教えていないでしょう。競争を教えていないでしょう。そのくせ、中学出るときには、高校を受けるときには入学試験がちゃんとあるわけです。中学校に入るときでも私立に競争が強烈なのがある。それがありがたいながら、運動会では競争させないとか、それでは結局弱い子ができて、ちょっとつまずいたら引き込みりでしょう。引き込みったら、昔だったらだめだというのが、今はあれは障害者だから障害保険適用という、こんなばかなことをいつまでやっているんですか。老人には冷たく、引き込みりには厳しく、それから、子供たちはたくましく育てるというのが私の意見です。

こういう嫌なことを言うのは老人ばかりかもしれませんが。でも、私などの世代は苦労して生きてきて、一生懸命働いて、日本のレベルも経済が上がってきた。その過程での苦しさ、だけれども、苦しくても頑張るほうに気持ちがいっているんです。今はちょっと苦しいとへたるでしょう。頑張るほうを育てなかったらあなた方は宙に浮きますよ、若いほうがつぶれてきますから。だから、そういう教育をして欲しいという意見を、まじめに考えてください。僕がこれに書いたのは、教育委員会と一般市民とがディスカッションする場というのはあっていいんじゃないですか。教育は先生と教育委員会だけでやっていたら絶対あなた方は浮いてしまいます。あなた方をサポートする、守ってくれる軍隊はなくなります。それはそれで。

あとはコミュニティセンターの話です。コミセンをつくった由来を拝見していると、自治を、自治のシステムを何とかして築いてあげたいというのが見えます。だけれども、自治というのはどういう形を自治とっているのかが私には読めないんです。だから、ここでも最初に言いましたけれども、市がぼんやり見ているだけではできませんよ。自治の体制はどういうものか。自治の中には組織ができなかったら一万人単位で組織がなくて自治というのはわいわいがやがやで、ここと同じで結論を出さないでいくんです。だけれども、あれは自治というのはどういうものかというのを、市の希望する自治はどんなものかというのをイメージをはっきりして、それでその地域に伝えないと。地域では楽しめるならいい。ただし、いろいろな義務を負うのは嫌だというんでしょう。それは当然の流れですよ。みんなそう考えますから、自治というものは成り立たないです。ぼやっと見ているだけ。

今は何とか協議会というのがあるんですね。それから、指定管理者というのが。あれがどういう役目と責任を持っているかというのは一般の人は全然知らない。だから、自治とって、ああいうものがあるんだったら、それは自治をまとめるリーダーであるか何か、なっている人も自分はそういうものだと思っていないですね。だから、自治をああいう一万単位のごちゃまぜの一万単位に自治をやらせるには、それだけの組織をしなければ。この中にも書いていますけれども、人々の交流の場を提供する。場だけではだめで、場と機会です。場と機会を提供しなければだめです。それがなかったら絶対まとまらない。

○G委員 私も3つほどあるんですが、まず、全体のまとめ案というのは後でやるというふうに聞いたんですが、そのまとめ案のところにも関係はしてくると思うんですが。一応ここの最初のところに、異なる立場の意見がある場合は併記を行い、発言のニュアンスを残しながらというふうには書いてあるんですけども、非常に文章が美しくなってしまうして。

○事務局（企画調整課長） 文章の中身はまた、それは委員の皆様の最後の報告ですので、そうではな

くて、論点の話をしたほうがいいんじゃないかなと思っているんですけども。

○G委員 こういうふう書いてあるので、私は相反する内容がはっきりわかるような表記の仕方が必要だなということで、後でまとめのところで言おうかと思っていたんです。あとは、今、Eさんもおっしゃったように、今度は民間というか、事業者の力が武蔵野市は、今行政と市民の問題だけでやっているんですが、行政、市民、それから普通の市民、それから企業市民という言い方をよくするんですね。特に昼間の人口というのは一般的には武蔵野を通り越して都心に行ったりということで昼間の人口は本当に高齢者の方とか、それから主婦の方というふうに、非常に少なくなってしまっていて、いざ何かがあったときに助け合えるかどうかということが不安があったりするものですから、ここは、武蔵野は企業が結構ありますし、商店街の中にいっぱい外から来ている人たちが、市民でない人たちがたくさんいます。商店街もずっと24時間いらっしゃる方もいますので、これからはそういう民間の企業といわれる方たちの力も借りながら、特に防災、銀座はほとんど住んでいる人が少なくて、防災組織は企業が、デパートとか、そういうところが受け持って地区ごとにつくられているというので、それは最終的にはまちを守るということにつながると思います。そういう形で民間の力です。それは武蔵野市では一つの力に今後なっていくと思いますので、いかにして引き入れていくかという、それを考えるべきではなからうかなというふうに思います。

通勤している学生さん、そういう人たちも、よくDさんが学生の力とか、そういう若者の力を借りるとおっしゃるのは、昼間見てみると大学は成蹊大学があるし、それから日本生命何とか大学、ちょっと先には武蔵野大学があったりするので、そういうところの若い方、昼間いらっしゃる方たちで、もし万一昼間に何かがあったときに力を借りるとか、それから日常的ないろいろなところについて協力をしていただくという、そういう仕組みが必要かなというふうに私も思います。

あと、さっきAさんもちらっとおっしゃったんですが、行政と市民のことについては、皆さんそれぞれおっしゃっているんですが、一つよく考えてみれば抜けているなと思ったのが市議会です。市議会は予算のいろいろなさまざまなお金がくっついた形であるところですから、立法府です。そのいろいろな、私たちなかなか、傍聴に行ったり何かすれば中身は見えるんですが、一般の市民の人たちに見えみると、市議会は何となく、選挙のときは人を選ばなければいけないからあれなんです、遠い存在に見えたり、本当はもっと市民の力になってほしいと思うときなんかはどういうふうにしていいのかという、そのあたりのところがわからないのと、あとは議会を時々傍聴すると体質が古過ぎて何とかしてくれないかなという、改革についてだが、自分たちで改革するとおっしゃるけれども、それは身内の問題なのでなかなか進まないの、市民のほうから、行政は言いにくいでしょうから、市民の側からそういう仕組みをしっかりとつくっておかないと、だんだん乖離していくような気がしてしょうがないんです。だから、それもここに書けるかどうかはわかりませんが、要らないおせっかいだといわれそうな気がしないでもないんですけども、でも私たちは自分たちが選んだ代表ですから、代表についても一言申し上げるということは大事なことだと思いますので、そういう問題も一つここには必要な。ほとんど抜けていますので、それが必要ではないかと思いました、はたと考えて。

それから、さっきEさんもおっしゃったように、広域のことについて、今後はだんだん財政的にも武蔵野市の将来がどうなっていくかわからないんですけども、以前も私は廃棄物問題のことや何かで言ったんですけども、今や一つの自治体で一つの施設を、お金がかかる施設を持つというのはこれからはなかなか難しい時代になっています。（五市連絡協議会が）今4市になりましたけれども、そういう形で、緩やかな連合体、連絡体みたいなものを持っていますね。だから、こういうのをもっと広げていって、できるだけ効率の良いさまざまな公共の施設とか、そういうものも考えていかなければいけない

時代に入ってきていると思います。

それから、公的な施設の運営、公共施設を運営する主体についても、さっき指定管理者制度や何やかんだのと言われておりますが、経費の問題もあるんですけども、PFIでいろいろな形で運営主体を、公設ではあるけれども民営とか、運営を、そういうような工夫をしながら、できるだけ民間とかそういうところにも運営のあれを軸足をそちらに移してみたり、あるいはそこの中で雇用の創出をつくり上げてみたり、そういう方法もやりようによってはいろいろありますので、ただし、責任はちゃんと公的なところは公的な行政が責任を持つという、そこのところさえ外さなければ、方法としては逆に公営だともうがんじがらめに縛られてしまって、非常に、それは前例がないからできませんというようなことが多いんですけども、民営でやっていくとそこが非常に緩やかになっていく部分がありますので、物によってはそういうことも必要な時代ではなかろうかなというふうに思っています。

それと、都市基盤、都市リニューアルというところのまちづくりの問題で、私自身の問題にもかかわってくるんですが、若い人たちがなかなか住み続けられないという、このあたりのところはまちづくりのこれからの問題で、住宅の問題について何か手を打たないと、だんだん生産人口といわれる人たちが、少子高齢化の問題でいろいろな支援をする施設をつくったりするのと同時に、住宅の問題でも何らかの形で手だてを将来的に打たないと人口が減ってしまっていくのではなかろうかなという、ちょっと杞憂がありますので、それは一つ何かの形で入れていただきたい。

武蔵野市は集合住宅といわれるマンションとか公的な都営住宅とか、URの住宅とか、いろいろあるんですが、それが6割なので、今後古いマンションの建てかえをしたりするときにある程度、建てかえるときは非常にお金がかかりますので、そこでも住み続けられるかどうかという判断をせざるを得ない時期がきますので、その仕組みを、当然マンションは管理組合があったりして積立をなさっているというものはあるんですけども、例えば何らかの形で支援をするとか、金銭的なものでなくても支援をする仕組みみたいなものがこれからは必要になってくるのではないのでしょうか。かなり古いマンションが見えても相当多いので、建てかえの時期になっているときに、これはどうなさるんでしょうかという、余分な心配をしているんですけども。そういうことがありましたので、ここの中に書かれている以外のことで少し気になったので、言ってみました。

以上です。

○A委員 Jさんが来られてから言ったほうがいいのかと思っていたんですけども、あと70分ぐらいしか時間がないので確認させていただければと思うんですが。今まで出ていなかった論点を出すというのは必要だと思うんですけども、きょう5回目で、あと70分しかない中で、今後どういうタイムスケジュールでまとめていくのか。あるいは、議論をどういうふうに進めていくのかというのを確認させていただいたほうがいいのかと思うんですが。

○事務局（企画調整課長） 冒頭に申しましたように、議論の結果をまとめたものが報告書と思っておりますので、まず出ていない論点、さらに議論が尽くされていない論点についてご提案をいただいて、その中で特にこれについてご議論をしたいということがあればまずしていただきたいなと思いました。それともう一つは、今のタイムスケジュールでいきますと、全体を論点だけで話しているのはどうかとも私思っておりまして、できれば後半、もう70分ということになっておりますが、後半につきましては包括的に報告書としてどういうことを強く訴えるかとか、もう少し強弱も含めてご議論いただけないかなと思っています。余り論点だけをばらばら出してもというふうには思っております。

○A委員 もう一つ確認させていただければと思うのが、一応委員には事前に参考ということなのかもしれないんですけども、案みたいなものをいただいて、あとは実際にまとめについては6回目があっ

てもいいんじゃないかというお話だったんですが、そのあたりというのは、Ｊ委員も含めてなんですけれども、皆さんご了解されているのかという、６回目というのをご了解されているのかということと、案の位置づけというのはどういうふうな形で今後進めていかれるおつもりなのかというのをお聞きしたいんです。

○事務局（企画調整課長） 案という形で出させていただきましたが、事務局として今までのご議論をまとめさせていただいたものという位置づけでございますので、余りそこに縛られる必要はないのかなと思っております。６回目という言い方はふさわしいか議論があると思いますが、５回のご議論をいただいて、さらに延長戦といった位置付けかもしれませんが、委員の皆様で報告書としてどう仕上げるかというご議論をしたいということが前回提案がございましたので、それにつきましては委員の皆様と事務局で報告書としてどういうスタイルにするかということをもう一回、２回になるかもしれませんが、やりたいなというふうに思っておりますので、お示ししましたたたき台とか案というのは、それに縛られるものではないと思っています。ですから、今までのご意見を事務局案として、毎回言っておりますように、なるべく加工することなくまとめさせていただくとこんな形かなという程度でございますので、これは皆様が最後に報告書としてお考えになる形としてご議論を、次の回も含めて行っていただいて、報告書に仕上げていただければというふうに思っております。そのサポートは事務局でさせていただければというふうに思っています。

○Ａ委員 私は今事務局でつくられている案の形式に大きな反論はないんですけれども、ただ、一方で例えば今日出てきたことについても、あるいは最後のまとめの部分についても、どういう形でまとめるかということについては文言の表現とかニュアンスも含めて皆さん十人十色の意見が出てくる。そこを詰めていくのというのは相当時間もかかることだろうし、意見の対立もある。それはそれなりの時間、手間ひまかかる部分で、事務局のサポートが得られるにせよ、全委員が参画したほうがいいかなとは思いますが、そこは皆さん了解されているのかというのは、私ちょっと気になる場所なんですけれども。

○事務局（企画調整課長） あまり形式論の話で時間を使ってはもったいですが、前回４回目の中で、ぜひ報告書としてまとめる際に委員の皆様で時間をという話がございました。私どものスタンスとしては、５回の委員会を公開で議論をするというのが主たる目的だと思っておりますので、今日まではぜひご議論、いろいろな論点を傍聴の方も含めてぜひ公開の中でご議論いただいて、最後に、今、Ａ委員がおっしゃったまとめについては、多少時間がかかっても委員の皆様の中である程度合意できる、納得できるラインで報告書としてまとめるのはやはり皆様の合意だと思っております。私どもではなくて、皆様だと思っておりますので、そのサポートを含めて、それは若干時間がかかっても私どもとしては場を設定しながらやっていきたいなというふうには思っております。

○Ｈ委員 今までお話しした意見の整理みたいなものですが、同じことですが、私は初めから申し上げるように、武蔵野市がより良い市になるためにどうなればいいのかということについて皆さんいろいろ議論してくださって、私は、これは皆さん同じ考えだと思いますが、設備、施設あるいは設備がかなり充実してきた。もちろん常にそれを更新する必要はあるでしょうけれども、設備よりはこれからは人であろうということ、これは多くの方がおっしゃっていることだと思います。特に人、武蔵野市が市民にとってより良い市になるにはどういう観点が必要かということで考えてきたと思うんですが、私は一つにはやはり交流が盛んになる。今までも武蔵野市は比較的交流が盛んな市だとは思いますが、より交流が盛んになることがより良くなるための一つのステップではないかなというふうに考えてきました。

交流を進めるために、もちろん市民一人一人というか、全市民が努力しなければいけないし、心がけなければいけないと同時に、その部分については市からも、行政の立場でもいろいろな面でサポートしていただいたほうがそれが具体的になるというふうに考えております。これは先ほどFさんがおっしゃったように場や機会をもっと市としても設けるようにしていただきたいということだと思うんですが、私の場合には交流の一つの場としては、これは今までのお話にもあったように、縁側という考え、あるいは広場という考えに基づいて、今までも既にテンミリオンハウスとか、コミュニティセンターがありますけれども、そういうもの、場をもっと充実させるということが一つある。

だけれども、箱だけつくればいいというものではなくて、その中での活動も、もちろん市民が自主的にやるのが理想ですけれども、なかなか取りかかりが難しい面もありますから、そういう活動の中身に関しても、あるいはそういう交流のシステムを進めていくという面でも、市がもう少し積極的に推進をしてくださることが大事なことでないかなというふうに思います。そういうふうに、施設のことから、中身、人について重点が移ってきているというお話を今したわけですが、一つだけ。

とはいいいながら、一つは今までお話しに出なかったんですけれども、小さいことなんですけれども、施設について一つだけ忘れていたことで言いたいことがあったので言わせていただきますと、これは既に取り組んでいらっしゃるんですが、電柱、電信柱、これは景観上の問題、それから特に自転車の問題が出てきたときに、交通上の安全の問題、ただでさえ非常に狭い歩道をさらに狭くしているのが電柱です。これは景観的にも安全上、交通の便の面から見ても非常に大きな、今武蔵野市の都市的な障害になっているんです。これについては徐々に進めてくださっているとは思いますが、東電あるいは東京ガス、そのほか各企業と共同で共同溝を積極的につくる、そういうことについても進めていただきたい。これは武蔵野市のインフラとして僕は非常に大事なことだというふうに考えております。これは一応市民会議という場で一言言わせていただきたいなと思いました。

○I委員 今、Hさんがおっしゃったようなところで、インフラというところが今回皆様何も議論されていない。9人議論されていてインフラは何一つ言わないんだと思いました。きょうの豪雨でも水没している地域は武蔵野市の中で実はあるわけです。その部分の上下水道維持管理というところは人が住むに当たっての社会インフラの部分のところの整備というのはきちんと市民会議でうたっていた方がいい。その部分が自分が住んでいるところの安全というのがあった上での生活だと思うので、そこをきちんとできるというのは、それは行政以外の何物でもなくて、それを勝手にどこかの企業がやってくれるというわけでは絶対ありません。

インフラという点でいうと、Hさんがおっしゃったように電信柱の問題というのは実はいろいろあって、その関係者なので言ってしまうと、電気が上に走っているということは地震のときに実は復旧が早いんです。なので、そういう観点からすると電気屋さんは絶対に地中に埋めたがらないんです。電話も同様に同じような言いっぷりはするんです。そういう点からすると、そういうところまでひっくるめたとこで埋めるというのは、非常に企業寄りの部分も強いんですけれども、上下水道は市のところでどうにでもできることで、市以外はできるしろものでもないもので、その部分はきちんとやっていたきたい。ここの中で必ずうたってくださいと思っています。

少子高齢化対策というところで、この報告書では少子と高齢化を分けてくださいというので分けていただいたんですが、もう一步突っ込んで言うとするならば、子育てしやすいという点で、男女共同参画にもやかかわってはくるんですけれども、男の人が育児に参加するということというのは非常にハードルが高くて、男の人が働かないで育児をするととなると収入源がなくなるわけで、収入源の部分のフォローさえあれば共同参画という点とか、育児がしやすい。子供が育てやすいという環境が成立してく

る。そういう部分のところでも何らかの市の行政から補助的な部分をつけてもらうというのは、少子対策になるんじゃないかなというふうには思っています。

以上です。

○B委員 さっき保留にしていた部分です。市民と行政の協働のところ、2つ追加というか、強調してほしいことがあります。1つは、Eさんの発言でしたか、市民参加には情報提供が不可欠であるということで、そのことでは武蔵野市は遅れているという表現をなされた後に水道部の例が入っているので、そちらのほうはむしろニュアンスが強くなっているんですが、情報公開について、このまちは、例えば5年前とか10年前に比べて格段によくなっていると思うんですが、一層の努力が必要であるというようなことをきちんと入れておいてほしい。その例として水道部の例を挙げるといったふうに、そのことをきちんと書き込んでほしいと思っています。

もう一つは、この前いただいた行財政改革アクションプランの一番最後のところに載っている自治体運営の基本ルールの検討ということなんですけれども、私はこれは協働のところに入るかなと思ったのですが、Aさんは行政運営のところに入れていらっしゃる。それはどこに入れてもいいんですけども、これからの協働とか、それから市議会との関係も入ると思うんですけども、そういったことを考えていく場合に、自治体の基本的なルールというんですか、運営のルールみたいなものを市民も行政も市議会も合意したようなルールづくりというのはちゃんとやっておく必要があると思うんです。このことは一項目立てて書いてほしいと思っています。

それ以外のことで言うと、今後のことに入るんですけども、例えば私はこの協働の部分と次のコミュニティのところ、特に今回の中では大事な部分だと思っているんですが、ちょっとした言葉のニュアンスで全然意味が違ったり、あるいはわからなくなったりするところがたくさんあります。そういったのを多分今後の、今日ではなく、今後のところでやらせていただけたらと思うんですが、それはとても大事だと思っています。お願いします。

さっきおっしゃっていた、よくわからないからもうちょっと話を聞きたいというようなところは、幾つかないことはないんですが、例えば11ページのコミュニティのところ、コミュニティよりもっと小さい、ごく近くの居場所があるといい。そのことがコミュニティの活性化にもなるというのと、コミュニティよりもっと大きい、公設としてのものがないという、これは両方とも違うとは言わないんですけども、両方ともありというふうに考えるということですか。

○事務局（企画調整課長）事務局としては、それは前回の議論だったと思うんですが、18のコミュニティ、コミュニティセンターよりもっと身近に、小さくてもいいからというご意見もありましたし、もう少し複合的で大きいようなものもありましたので、私どもとしましては、それをどちらというふうに集約するのではなくて、両論併記という形で、今のところです。

○B委員 これは良い、悪いの問題ではないということですね。

○事務局（企画調整課長）そうです。

○B委員 また、例えば12ページのコミュニティのところ、これについてはややもうちょっと論議が必要ではないかと思うのは、今のコミュニティセンターの評価みたいなものが関わってきますね。結果的に自治は育っていないとか、それからコミュニティの担い手がいないとか、そういうふうに断言していいのかなというのが私の中にはあるんですが、そういうふうに思っている方がいるんだったら、それはそれで、さっきおっしゃったように記述するというふうに。どういったところでみんなで論議したらいいのかと、今、思っていたんです。皆さんの中でこのことはもうちょっと論議する必要があるということがもうちょっと出てくるとその辺がちょっとすっきりするんですけども。

○事務局（企画調整課長） もしかしたら、真贋の話をしているのではなくて、皆様、例えばこの間も象徴的だったのは、昭和46年から市がコミュニティ構想を持っていたことすら知らない市民の方が多いんですが、それが真であり、偽でありではなくて、それが事実として思っている方がいらっしゃるということをちゃんとお伝えするのが大事なのかなというのが事務局のスタンスですので、さっき申しましたように、真贋の話ではなくて、ご議論があった。そういうことを思っている市民の方がいらっしゃるというのが事実という観点でさせていただいたということです。

○B委員 21ページの目指すべき武蔵野市のあり方ということはある程度コンパクトにまとめた部分については、もうちょっと論議がされるべきかなと思っています。

○A委員 これは私もまさにどうまとめるか、延長線で議論するにしても何らかの目指すべきあり方みたいなものをまとめるのか、それとも両論併記だけで終わらせるのかということは、この会議である程度話しされたほうがいいのかというふうには思っていたんですが。

○事務局（企画調整課長） まず、まだJ委員にご発言いただいていませんので、いかがでしょうか。今の位置づけとしましては、今まで議論が出ていない、または尽くしていない論点について、ここでご議論いただきまして、その結果として報告書が出てくだろうというストーリーでございますので、今申しました、尽くしていないとか、出ていない論点についてご発言をお願いします。

○J委員 基本的な大まかな抽象的なことで皆さんの意見として一致しているのは、多分人にとって優しい人のためのまちであるということは、皆さん共通の意見だと思います。細かいことを述べればたくさんあるんですが、それを言って違うということで、今、企画調整課長がおっしゃったように、私は今回すごく感動した。コミュニティが46年前から、それを知らない市民がいらっしゃったということが大切という、私もまさしくそのことだと思います。皆さん関心のない方もいらっしゃるかもしれないんですけども、そういうふう知る機会がなかったということもいろいろありますね。例えば仕事が忙しくてこういう会議自体があるということも知らない市民の方もたくさんいらっしゃると思いますし、今こうやってこの場に参加しているという方は、自分でこの応募用紙を見たり、最初にあった自己紹介のときに思ったんですが、何らかのことに、今までごみのこととか、何かコミュニティのことをやっていたという方ということで、ある意味かなり偏っているなと思ったんです。同じような意見というのは、

どのようなことが大切、何が大切かと思ったというのは、日本は今先進国の中においても超高齢化ということで、何をモデルケースにしていけるか。どの都市をモデルケースにしていけるかということがわからない状態だと思うんです。それは、そういう都市がないからであって、武蔵野市がそうというよりも、以前おっしゃったように、武蔵野市はまだいいほうであって、どの都市をモデルに、例えばコミュニティはこの都市がいいならこの都市をモデルにしていける点を取り入れていければいいということが参考になるんですが、全くどれをやっていいか。とにかく新しいことにチャレンジしていかないといけないということで、市の方も多分たくさん悩んでいらっしゃるというのが正直なところではないかと思います。

それで、将来の武蔵野市を考えるということで、今までやってきた良い点はもちろん引き継いで、皆さん努力されてきたことはそのまま生かしていくというのはたくさんあると思うんですが、新しいことをやらなければいけないということはすごく大切なことになってくるんじゃないかと思います。というのは、それに対して抽象的なことを言うのも、こういうふうにしていきたいということは5回の会議ということなのでそのように最初は話せばいいのかと思っていたんですが、以前Dさんから具体的な意見で市民マラソンをやる。もちろん武蔵野市は小さいので一つということは無理かもしれないんですけども、交流ということで、ほかの近隣の市とあわせてそういう市民マラソンをやる、何なりと、そうい

う具体的な案がもっと。最初はそういうのは求めていच्छらないのかなと思ったんですけども、すぐそういう具体的な案というのは市民の声としていいんじゃないかなと前回のときに思ったんです。

もっともっとうこういうふうに自転車を整理してほしいと言っても、ではどのようにするか。駅から500メートル以内は自転車は一切入れない。自転車に乗る人は健康な人であるわけですから歩かせるようにするとか、もっともっとう具体的なことをもっと市民の直接の声を聞いたり、今までこういうふうなもっともっとうこういうふうに優しく、こういうふうに優しく、コミュニティをこういうふうに活性化せましようというふうにやってきて、もちろん今後もそのようにやればいいと思うんですが、それだけでは多分対応していけないというふうなことはだれもが考えていच्छると思うので、意見も偏っているなと思ったら、これも経済学的に決して論理立てているものではないんですが、以前おっしゃった2対8の法則のように、会社でも2割働く人で支えられているというように、武蔵野市の財政のことも詳しくはわからないんですが、ある程度2割の人によって支えられている部分はかなりあると思います。

皆さんどうしてもこういう社会というのは多数の意見で、もちろんそれによって皆さんにとっていいようにするためですからそのような意見を大切にしていって行くのも大切なんですが、実際、では8割の方の意見だけを聞く。例えば2割の方が、では私たちは引っ越すわというふうになってしまうと、極端な話なんですが、武蔵野市にとってはやっていけなくなる状態になると思うんです。お友達に聞いても、別に言っても何もならないというふうに、無関心なのか、聞き入れてもらえないというのか、いろいろその辺も難しい問題があるんですけども、よりよく層の意見を聞いていくというふうなことに對して、市の方はどのようなアプローチをとられるのかなというのが、前回会議を終えての私の率直な感想だったんですけども。

そういういろいろな立場でいろいろな方の意見があるということを、今回これをここに来ている人たちが市民代表ということではなく、これは本当に偏っている。というのも、いろいろな市民のコミュニティの参加とか、こういうふうにしていच्छるとか、よく慣れたというか、私としては初めてこの市に来てこうやって、ある程度ごく限られたところでやっているような印象を受けましたので、もっともっと幅広く、こういうふうにごく税金を納めている、貢献はしているが別に市立の学校に通わせている、武蔵野市の学校には通わせていないし、もちろん下水を使ったりごみを出したりしているからもちろん市のあれにはなっているんですけども、またそういう人たちの意見というのはすごくあると思うんです。そういう人たちの意見とか、また違うこういうコミュニティ、違う場所に住んでいच्छる意見というのはかなり違うものがあるんですけども、そういう方たちの意見というのは市としてどのように吸い上げていこうとか、そういうふうを考えていच्छるのかなと思ったので、もっともっと見えていない部分の意見はたくさんあるんだということを伝えたかったというのが、意見です。

○事務局（企画調整課長） 今までいろいろ論点が出てきたんだと思うんですが、余り課題提起ばかりということもありますし、最後にどうまとめていくか。例えば将来像として結んだ報告書にするのか、それとも方向性という形にするのか、まとめ方のテクニカルな部分もあろうかと思うんですが、字面とか報告書のつくりについてはまた次としまして、どういうふうな報告にするのかも含めてご議論、まとめとしていただければというふうに思っておりますが。

○D委員 武蔵野自由大学がありますでしょう、あれはすばらしい制度だと思うんです。僕は女子大以外は全部行っています。抵抗があつて女子大には行きませんが。だけれども、来ています。みんな暇つぶしです。僕たちが、我々の年齢は、人生あと残り暇つぶしなんです。できればそれでお金が稼げればいいんですけども。できればカレンダーが真っ黒でスケジュールがいっぱいだと生き生きするんです。私は自由大学みたいなものを市でもっともって考えて、大学がたくさんあるから自由大学とい

うのが制度でやれるんですけれども。

先ほどもFさんが言われましたけれども、自治会のあり方を変えたらいいです。コミュニティ中心になっているでしょう、コミュニティセンター、やっぱりボスが必要です、その地域のボスが。私が仙台にいたころだと1年に3回ぐらい野球の試合をやっていました、ボスが来いといって。大変失礼ですけども、この方は違いますけれども、今のコミュニティセンターというのは私から言わせれば自己満足で、コミュニティセンターは知っていますよ。何回も言っていますけれども、パソコンの勉強会も行っています、あらゆるところへ行っていますけれども、自治会のあり方をもう一遍根本的に考えて、市民をみんな武蔵野自由大学みたいな制度にするぐらいに。

武蔵野自由大学だったらみんな杉並区からも来ています。僕は来い来いと一生懸命勧めています。科目履修生として。それらをやる。要するに自治会のボスが地域でもうちょっとしっかりしていれば、もっともっと、先ほどおっしゃったような、Hさんがおっしゃったような、きちんと会話していく。同じ、共通の趣味を持っていれば必ずウマが合うはずですよ。どんどん広がっていくと思います。というのを僕はぜひ進めてほしいなと思います。

我々5人の意見がどうのこうの、まとめようは難しいと思います。そんなもの私自身全く期待していません。どういう人がいるのか聞きにきただけであって、そんなものまとめるのだったら市長に立候補しています。

○C委員 どういうまとめ方をするかという議論をする前に、どういうふうに市民会議の報告書を策定委員会ではお使いになるおつもりなんでしょうかということをお聞きしたいんですけれども。

○事務局（企画調整課長） 基本的にはこの市民会議自体は策定委員会が設置したのではなくて市が設置したものですので、皆様から、この間もお話がありましたように、報告書はまず市長にご報告をいただければなと思っています。その場でまず市長と皆様の意見交換の場を何とかつくっていきなというのが一点であります。それから、市長が設置した委員会でございますので、それについては市として策定委員会にご報告するというのが一点と、また、できれば策定委員会と皆様との意見交換の場が何とかできないかなとは思っておりますが、スケジュールがタイトなところもございます、その辺につきましても策定委員会とご相談しながら、何とかそういうふうに直接の場をと思っておりますが、基本的には市が設置した委員会でございますので、市がお受けさせていただき、策定委員会に当然私自身今後の策定委員会の議論の一つの重要な材料としていただきたいなというふうに思っております。

○B委員 この辺の話は議論しておいたほうがいいと思うんです。違う意見があるということがわかって、違う意見もあるなということはどういうふうにお受けになるかは別として、Dさんのお話に反論していきます。武蔵野自由大学は確かに武蔵野市に合った学習の場だということはいえると思うんです。ただ、おわかりだと思いますけれども、あれだけのお金を出して、ああやって勉強にいける人は武蔵野市がそもそも裕福だということもあるんですけれども、一部とはいわないまでも、大部分の人ではないわけです。ということが一つあります。だから、これは公の教育の場、学習の場ということとはちょっと違う、武蔵野市みたいに豊かな人がいるところで、自分の興味とか関心だとか、教養だということで勉強に行く場を提供されているという、幸せな状況だと思うんです。ただ、その辺の、むしろそういったような、昔でいうところの生涯学習みたいなことが必要な人たちに、無料のというか、そういう学習の場は生涯学習課では保障されていないというのが武蔵野市の現状だし、それはそれで私は否定しているわけではないんですけれども、それだけでいいのかというのはいつも思っています。それが一つ。

あと、コミュニティセンターの中に入って活動してほしい、そうでなければわからないなんてそんなことを言うつもりはないんですけれども、それぞれのコミュニティセンターが20年から30年これだけ苦

労してきて、何にも今到達点がないということではないといったことあたりはぜひご理解いただきたいと思うんです。私たちの南町コミセンも、今でも悪戦苦闘しています。いろいろ努力を積み重ねています。その中で、この前も申し上げたように、ある意味で確信を持ってまちをよくしていく。まず南町を良くしていく。ひいては武蔵野市を良くしていくというところでは、市民が自主的に動くということが今の時代絶対に必要だと思うんです。だから地方分権だとか、地方自治とか、市民自治という言葉がこれだけ言われているわけです。それはそんなに簡単なものではなくて、今いいものでない、常に努力を積み重ねていかなければいけないんですけれども、だから、年齢からいったらそうは違わないんですけれども、だれかに指示されてやるということでは人間はそんなに自分の本当のエネルギーを出すとは限らないわけです。そう変わらないと思うんですけれども、私の場合は上から指示されてやる場合ももちろんあります。それが必要な場面というのもしばしばあるから。ただ、自分たちで考えて、このことのためにこういうことをしようねとみんなで考えてやることのほうがずっと好きだし、ずっと力が出るし、ずっとみんなのエネルギーが出るというふうに確信を持っているんです。この辺はこれからやっていく中で非常に大きなところだと思うので、これからまちをつくっていく中で非常に大きなところなので、ここにいる皆様にもご理解いただきたいし、策定委員会の皆様にもご理解いただきたいと思っているところなんです。

やっぱり世の中は、今日本は結構厳しい状態ではあるんですけれども、いいほうにも変わっていているんだと思うんです。どこかで私がこれからの未来は、日本もそうだけれども、武蔵野市もバラ色ではない。市民も苦勞しなければならぬ場面が多々あるというようなことを、言ったか、書いたかと思うんですけれども、私は本当にそう思っているんですけれども、いい苦勞だったら、自分たちの苦勞だったら市民はいとわないわけです。その辺のことのご理解はいただきたいと思っています。

○G委員 Dさんが時々おっしゃるわんわんパトロール、そういうようなことなんかでいろいろな形で独自の方法でなさっていらっしゃるという方が武蔵野市にいらっしゃるということを知っただけでも、これは私がここに来た一つの宝物だと思っています。そのように、いろいろな人がいて、いろいろな考え方をもちになっていて、意見とか要望もさまざまな中で、Bさんが今おっしゃったように、あっちへいったり、こっちへいったり、クリーンセンターの25年の運営協議会の報告書を見てもらうとよくわかるんですが、本当にいろいろな人が参加をしますから、必ずしもそれだけに詳しい人ばかりではなくて、地元のいろいろな人ですから、スタートが全部違っていたりすると、本当に議論がぐちゃぐちゃ。本当にこれでまとまっていくなかというふうなことを25年間も、もう間もなく26年なんですけど、続けてきたというのは、みんなそれぞれそれなりに考えて、わからないなりに考えて、ほかの人はどういうふうに思っているのかというのを聞きながら、なるほど、そういう考え方もあるんだなというのをすべて受け入れて、では、こういう方向にしましょうかというふうにまとまってくる、そのプロセスがすごい面白い。この間Eさんも傍聴にきてくださって、すごく深いですねと言われたのは、一つのこと、恐らくほかの人が見たら何であんなことをこんなに2時間も議論しているんだろうと思うようなことを、みんなが一緒になってその一つのテーマについて、ああでもない、こうでもない、と正反対の意見も出たりしますから、それをやる中で、みんなつくり上げていく楽しさ、それがあるんです。

だから、Dさんがどのくらいコミュニティに携わっていらっしゃるのか私はよくわからないんですけれども、そういう形で人に呼ばれて一緒になってずるずるといってしまった人と、みずから手を挙げて参加をした人とはまたそれなりに違うかもしれないけれども、何年かやっているうちに、確かにさっきHさんもおっしゃったように、そういうみんなで交流をしたり何かする場所とか機会をたくさんつくるといことは、いろいろな視点からいろいろな人たちを見ることができるといことで、私自身はそう

いう形で25年間もかかわってしまったんですけれども、やっていて、とても自分自身を成長をさせるために肥やしになって、私にとってはすごく助かったなというところが多いので、時間を決して惜しいとは思っていませんでした。あつという間に25年過ぎましたから。今考えてみたら四半世紀です。四半世紀ごみをやっている人もまた珍しいでしょうけれども、そういうことなので、ボス的な人がいて引っ張ってくれるというのは楽ちんでいいかもしれないけれども、でもそれはちょっと人によっては達成感みたいなものを味わえない。共感ができないというのもあったりしますので、考え方としては一つあると思いますけれども、みんなでぐちゃぐちゃやりながら、なかなか進まないかもしれないけれども、三步進んで二歩下がるとか、そういう感じですけども、そういうやり方もあるということ、武蔵野はそういうやり方を今まで目指してきたような気がします。これからは私自身はそういうふうに、時間はかかるけれども、みんなでいろいろな意見を聞きながら、三步でも二歩でも一歩でも進んでいこうという、そういう将来像もいいな。だから武蔵野にずっと住んでいるんだろうなと思うので、そういう方向でまとめられたらとてもいいなと私も思います。

○事務局（企画調整課長） さっきあと70分と言って随分時間がたってしまったんですが、第1回のこの会議の際に、5回のご議論の中で一つの方向性を見出せるかどうかというのはあるという話をさせていただいたと思っております。さっきも途中でご議論ありましたが、真贋をつけるというよりも、いろいろな立場の方がいらっしゃって、いろいろな市とか将来に対するお考えがある。それを正しく伝えることが重要なのかなと思っております。何か意見を淘汰するとか、まとめるという観点で私どもは思っておらないところというのがまず一点ございます。

そういうことで、たたき台ということでお示しをさせていただいているところですが、これはあくまでもたたき台、委員の皆様の内部のお考えをどうするかということでお示しをさせていただいたところでありまして、基本は皆様のご意見をどううまく策定委員会にお伝えし、いろいろな観点があるんだということかなというのが一点ございます。

ただ、そうはいっても、その中で最大公約数的な、皆様でどこか集約できる何かポイントを、例えばあり方という形でまとめていくということもあらうと思っておりますので、それにつきましてはA委員から一回提起をいただいた点について、これは事務局として付記をさせていただきまして、まとめさせていただきました。一つは、さっき申しました委員の皆様のさまざまなご意見をまとめていくというのが一点。あとは、それを最大公約数化するかどうかということがまとめ方としてあるのかなというふうには思っております。

○E委員 議論のまとめ方についてどうするかという話の中で、報告書（案）を参考にしながら、この意見の多様性をしっかりと出していき、それが大事ではないかなと思いました。私がこの会議に出る前に気づかなかった視点というものがたくさん出て、そういった人の意見というものはちゃんと併記しておくべきだと思いました。その意味でこの報告書（案）の両論併記という点には私は賛成です。

2点目で、まとめ方で、例えば前回は3つの視点という形で大きく括られていましたけれども、今回7つの分野に、1から7まで、1の少子高齢化社会から7の憧れのまち・愛着のあるまちまでというフレームでまとめられていますけれども、私は何かフレームである程度まとめるというのは賛成です。このフレームの仕方について、私はこの分野ごとに、7つの分野について、大体この会議で話し合われたことはある程度カバーできている。このフレームの枠組によって第4期の調整計画と比較しながら策定委員会とか市長が比較することができる。そういった点で、私はこのフレーム枠を大事にする。この7つの分野というのは私は賛成です。

もう一点なんですけれども、最後の集約するかどうかについて、私は2のところでは、両論併記とい

うのはしたほうがいいと思っています。一方で、何か6回、7回の会議でもしまとめられるのであれば、何を重視するかとか、ある程度合意ができたレベルまでまとめられるのであればまとめるのもいいと思います。そうすることで、策定委員会の方々に何が会議の中で重要視されたかとか、何かポイントがあるといいと思います。そういった点で、私のまとめ方についての意見です。

以上です。

○事務局（企画調整課長） 議論としては収束の方向に向かっておりますので、まとめ方ですとか、どうしてもここを重点的に訴えるべきだというような議論も含めて、ぜひいただければと思っております。

○I委員 多分Eさんとは真っ向から反対になるんですけども、Dさんがおっしゃったように、このままで僕はいいと思っています。要は、これがこの10人の中の意見で、無理にまとめることもなく、それから、5回以上やるかという点でいうと、6回、7回目という時間をどうやって捻出するんですかというところと、これは一応9月30日までというところで期限が切られているしろものの中で、あと6回、7回というのは、2日間の中でどうするんですかという、こう考えると、このままでいいんじゃないですか。このままこういう意見が両論併記でいっぱい出ていますというところを次の方々に引き継いでいただいて議論していただければいいと思います。

○事務局（企画調整課長） 今のご意見というのは、余り集約というか、絞った提言ということはしないで、事実としてここであった議論だけを、事実を記載するという形ということですか。

○I委員 多分集約は無理だと思うんです。どこかでだれかが我慢する羽目になると思うんです。数の理論でもっていかれる可能性が非常に高い。であれば両論併記でそのまま全部、このままでいいと思います。

○E委員 Iさんは3の目指すべき武蔵野市のあり方で、今の時点では3点上げられていますけれども、その点についても異論はありますか。少しまとめたような、集約したようなものになりますが、報告書（案）の21ページは。

○I委員 先ほどEさんがおっしゃったように、こういう意見もあるんだなというような、ある意味非常にいい勉強をさせていただいたかなと思っています。

○E委員 21ページはある意味集約した、ある程度合意できた部分で集約したものだとは私はとらえているんですけども、何か異論はあるんですか。

○I委員 異論は全然なくて、すごくドラスティックな言い方をすると、計画上の部分のところで抽象的な表現をするとこういうふうな言いぶりになるんだなというところで思っています。なので、別にこれに対しては、こうあるといいんだろうというのは、言っているニュアンスはわかっているので、否定する気は全くなくて、我慢するつもりもなく、合意ができるというのは、それはあります。個別の部分のところで両論併記の部分の部分をどうこうして潰し合い、潰し合いという言い方は表現よくないですけども、どこかあったり、色の強弱をつけるというのは個人的には余りしてほしくない。

○E委員 私も同じような立場だと理解しているんですが。

○B委員 20ページまでについては基本的にきょう新しく出たのを多少加える程度で私も異論は全然ないんです。あとは、よくわからない表現とか、言い回しを少し直す程度。21ページは抽象的に書いてあるから、ある意味で感心したんです。なるほど、これだと違うというのはないという感じで、多少ちょっと言い回しのあれはあるんですけども、私のセンスとは違うというような言い回しがあるので、ちょっと直す程度で私はいいと思う。皆さんの合意ができればこういう抽象的なものをつけてまとめるということではよろしいのではないかと、私は思っております。

○G委員 私も21ページについては、1、2、3というのは、みんなが、10人がそれぞれいろいろと発

言をした中の最大公約数としてこれはまとまっているのかなと、事務をなさる方はすごいなと。

○事務局（企画調整課長） 私ではなくて委員の方です。

○G委員 だけれども、それをみんながいろいろ自由にしゃべった中をこういうエッセンスにするという、このセンス、すごいなと思いました、感心しました。

○H委員 私は同じように21ページのまとめ、これを見まして、これを読んで、こういう形で最終的にこの会議というか、皆さんのお話が整理できたらいいなと思うし、これは非常にいいと思うんです。だけれども、私自身、個人的には中身、ここに書かれている文章そのものは異論があるというか、書き方もまずいし、異論があるんです。だけれども、この1つの項目に、理想的には1つの項目にまとめられれば一番いいんだけど、そうもいかないですから、この3つぐらい、こういう分野で整理ができたら大変いいことだなと思います。だけれども、それだけに、かなりエッセンスをまとめていますから、文章そのものがかなり難しいというか、これをまとめるのは大変苦労が要るんじゃないかというふうに思いました。というのは、ここに書いてあることそのものは僕は必ずしもこれをこのまま受け入れたいわけではないんです。この言葉の使い方、細かい点が。でも、そこまでこだわるぐらいにこれは大事なことだと思うんです。そういうふうに思っています。

○事務局（企画調整課長） 今、皆さんのご意見の中で、前半戦といいますか、事務局サイドで皆様のご発言の中から少しまとめさせていただいたといいますか、物すごく膨大な発言がございましたので、その中から一定まとめてさせていただきましたら、提言という形ですが、両論併記の部分と、あとは委員の方からご提案があった3つの方向性みたいな形でまとめていくということについては、文章とか中身はちょっとあれとしまして、その辺は皆様の合意ということでよろしいでしょうか。

○A委員 表現はともかく、骨格としては、事務局から提案いただいた報告書（案）で文言修正をみんなでかけるというイメージです。

○事務局（企画調整課長） 私どもはあくまでも、当初から申しておりますように、皆様のご議論のサポートという立場でございますので、私どもでどうのこうの作り込もうという気はございませんので、皆様がどういう報告をなさるのかというのがポイントだと思っております。それに沿って報告書を事務作業としてどうつくっていくかということだと思っておりますので、皆様のお考えとして今のA委員のご意見でよろしければその方向で皆様のご意見をいただきながらまとめていきたいというふうに思っておりますが、いかがでございましょうか。特にそれ以外に、例えばこういう何かをつけ加えたほうがいいとか、何かありましたら、それは今ご議論いただければと思っております。

○B委員 1つあります。3ページの初めのところ、2の公募市民会議における検討のあたりかと思うんですけど、私たちが10名の構成員で5回の会議でという限界があったので、ほとんど語られなかった分野とか項目があるということはお許しいただきたいみたいな一言は入れていただきたいと思います。

○事務局（企画調整課長） さっきI委員からもありましたように、設置要綱自体は9月末ということでございますので、5回掛ける2時間の計10時間のご議論ですので、どうしても尽くせないところがあったということが事実だと思いますので、そこはB委員のご提案があった、表現が必要だということで、わかりました。ほかに何か、全体のご議論でいかがでしょうか。

○G委員 参考資料のところまでも言っているのでしょうか。

○事務局（企画調整課長） その辺は後で、テクニカルなことなので。例えば、私が余りこんなことを言うのはあれなんです、さっきG委員がおっしゃった、若い人が住める、住みにくいというところがあって、これは市の中でも、また議会の中でも議論の一つのポイントになっているんだと思うんです。

が、例えば住宅の価格だとか、賃料というのは市場経済を反映しているところがありますので、市がよくなればなるほどみんなが住みたくなくて、市場経済に反映していくというところがあって、そういうダイナミックなところで何か、どうすればいいんだろうかみたいなところもあったのですが、済みません、これは勝手な私の意見です。何かそういう大きな。

○C委員　もしかしたら住民の方にすごく反対されるかもしれないんですけども、例えば空中権をもっと使用してしまうとか、集合住宅をつくって、若者にも住めるような住宅を供給するというようなこと、例えば桜堤のあたりとか、そういうところで大胆にやってしまうとか、そういうふうなことが、私も全然わかっていなくて、思いつきで言っているの、住民の方に物すごく反対を受けるようなことかもしれないんですけども、そういうふうな考え方もあるのかな。私は本当にそういう知識がなく言っていますので、思いつきなんです。例えば武蔵野公会堂を建て直すときはいっそのことマンションにしてしまって、1階、2階、3階をホールにしてしまって、上はマンションにしてしまうとか、そういうふうな形とか、そういうふうな、本当に思いつきで言っているのでもしかしたらおしかりを受けるようなアイデアかもしれないんですけども、例えばそういうことで住宅が供給できる。若者も住めるようなところをつくっていくとか、そういうふうなことがあるのではないかな。

あとは、若者の活力を生かすというようなこと、最初のほうに出ていたんですけども、何か最後の4回目では余り話が出なかったんですけども、例えば大学、成蹊大学とか、日本獣医生命科学大ですとか、亜細亜大ですとか、いろいろありますけれども、今武蔵境活性化委員会というのが立ち上がっていて、そこに随分亜細亜大の学生さんとか、日本獣医生命科学大の方々が入っていて、いい境という、フリーペーパーをつくって配ったりとか、境の道にトウガラシを植えて、ホットホットプロジェクトとか、そういうまちおこしを若者の力を使うというようなこともやっていけるのではないかな。そこでその方たちが住み続けられるようにしていくと、もっといい。具体的な方策はなかなか提案できないんですけども、そういうふうな若者を使っていく。大学生とも産学共同であったり、いろいろそういう協働的なところも大学とも、大学生ともまちづくりに寄与していくというような視点もあっていいんじゃないかなと思いました。

○J委員　学校がないから武蔵野市に住みたくないという若い人が結構多いんです。行かせたくない。行かせたい学校がないという意見が私の周りでは結構多い。それはかなり偏った意見になってしまうかもしれないんですけども、収入の割には皆さん教育費にすごくお金をかけるというふうな、すごくウエートを多く皆さんその部分を大切にされていると思うんです。もちろん若い人でもどういうところに住ませたいかという、子供のことを考え、子供のためにということであれば教育にかけるとのことになってくるので、市としてすごく自慢のできる学校があれば、そこに行かせたいというそれなりの考えを持った方たちがどんどん住んでくるようなまちにするには、住宅を住みやすくすることでも大切なかもしれないんですが、そういうものだけではなく、よい人材を集めるためにも、ちゃんとした教育の学校のあるまち。もちろん今私立でも成蹊とかいろいろいいのはありますけれども、やはりF委員が書いていらっしゃる、教育ということにすごく重点を置いてやっていると、それなりに若い人とか、将来を考えた人はこの学校でここに行かせようと思う方が根づくのではないかなと思います。武蔵野市に住んでいる方でもここは学校がないのよねという方を私自身もよく耳にしますので、そういう意味で教育ということに力を入れれば自然にあそこはいいからというふうに流れて住むことがあるのではないかなと思います。

○事務局（企画調整課長）　私がなぜそういう言い方をしたかというと、今、ここで議論になりましたまとめ方のお話の中に、生活をし続けたいですとか、愛着ですとか、コミュニティという話が出ていた

ものですから、そこに行き着くものとして、こういうこの3点でまとめという、さっきこの方向でという話があったものですから、大体そういうことでよろしいかどうかという、再確認のつもりで申し上げたんですが。

○G委員 住宅政策の一つになるかもしれないんですが、もう既にどこかのあれになるのかどうか分かりませんが、やっているのが、ハウスシェアリング、武蔵野は空き家も結構あるみたいですが、それを若い人たちに、仕切って、安い家賃で、共同の生活ができるような、共同というからにはそういう義務的なものが発生するわけではなくて、それぞれ快適に過ごしなながら、同じ住宅に、同じ屋根の下に住むという、そういう考え方も一つ政策的には考えるべきではないかなと思います。それは交流も一緒に伴うわけですから、ある意味で若い時代からそういう交流の場を創出していくと、話し合いの機会とか、話し合えるとか、その人がどんな人なのかというのをおしゃべりしながらでき上がっていくというのがある。この間たまたまテレビで見たんですけども、うまくいっている例だと思いますが、そういう方法もありなのかなと私は思いましたけれども。

○C委員 例えば中部地区の商店街を学生と一緒に何か新しい店づくりをしてみるとか、そういうところに学生の力を使ってみるというようなことで、今、記憶していないんですけども、どちらかのまちでそういうふうなことで成功したというような成功例を聞いたことがありますし、何かそういう形でまちおこし的なこともやっていけるのではないかな。そこでまた交流が生まれるというようなこともあるのではないかなと思います。実際にそれが税収が上がるほど儲かるかどうかは別にするんですけども、そういうふうなことをやっていくことでまちが元気になる部分があるのではないかなと思います。

○A委員 工業とか企業を大切にしてほしいなという気がします。というのは、息子の小学生の社会科の教科書で、横河電気の人が何人市内に住んでいて、何人隣の市に住んでいて、みたいなことが書いてあった。いろいろな地域活動をしていて思うのは、前にここでずっと生まれ育った人がかなり中核ですよという話をしたんですが、横河電気の人も結構中核なんです。これは職住接近で、時間に余裕があるのと、裕福で、気持ちにも余裕があるというのも一つあると思うんですけども、工業はどうしても今は迷惑施設みたいになっていますけれども、そういうバランスのとれた産業構造であって、職住接近で大企業があるというのは、市にとって非常に大事なことかなというふうに思いますので、今から誘致というのは難しいとは思いますが、出ていこうとしたときにいろいろな優遇策を講じて引きとめる努力というのはしっかりやっていただいたほうがいいと思います。社宅、大手町にある会社の社宅がここにあっても余り住民意識というのは、先ほど企業市民というお話がありましたけれども、余り強くないので、近くに会社がある人の社宅があったほうがよりいいかなという気はいたします。

○事務局（企画調整課長） それがこの最後のまとめの総論としての愛着であったり、コミュニティであったりということになるというのは、最後に総論としていかがでしょうか。まとめとして。

○D委員 僕も学生に聞いてみて、近くにおばあちゃんが一人いますから、一緒に住んでみないかと提案したんですけども、学生はだめだというんです。難しい。今の子は一人では動かない。老人と一緒に若者が防犯グループをつくって準警察という形でばつとやれば動くかもしれない。音楽会といたら、やろう、やろうといっています。だから、一人でみずから自分の行動で動くというのは、僕らの年齢とは全然違います。給料をもらい、家賃はただなんだよといっても、いやいや行かない。そんなのは面倒くさい。ばばあと住めるかというのが学生のあれでしょう。お金ではないですよ。我々とは感覚が違いますね。

○事務局（企画政策室長） シェアの話は、お屋敷にお住まいの高齢者の方が住みかえをして、それを大勢で住めるように改造して、若い人たちが住まうということですか。Gさんの意見は。

- D委員　そういう意見だったらいいですね。
- G委員　同じような年代の人が部屋を仕切って住み分けるといふ、そういう方法もあるんじゃないでしょうか。
- 事務局（企画政策室長）　その住みかえのお手伝いを行政がやるというようなスタイルですね。
- D委員　それはいいことですね。
- B委員　都市基盤とリニューアルの中には、シェアの話と、若い人、特に今の場合は若夫婦ですか、住めるといふことを入れておいたほうがいいと思うんです。どこかで家賃が高いことはよいことであるといふのが出ていましたね。あれは確かに一つの真実なんですけれども、あれだけだと十分でないといふ、何か引っかかっていたので、どこかで若い人が住めるようなことを考える。考えるといふことまでは入れておいていただきたいと思います。
- G委員　私が以前発言したのは、交流をいろいろしながら愛着ができてきたんだけれども、結局家賃が高くて引っ越してしまったといふのは残念だなといふのがあったので、ここの問題を解決すればその人は住み続けられたのになといふのがあって、そういう意見を言ったことがあります。
- I委員　まぜっ返すわけではないですけれども、行政運営の18ページ職員のところに、多分この前J委員が言われていたようなところの話だと思えますけれども、武蔵野市の職員の方は武蔵野市に半分以上住んでいないといふのがあって、要は市民が払っている税金が流出しているといふことですね。
- J委員　そうです、4分の1の方しか武蔵野市に。理想的には、4分の3が他の市の方といふ最初の説明にあったので、武蔵野市の税金がほかに全部流れているといふ言い方は、そういうふうに事実になってしまうんですが、それはほかの企業でも、ただ単に大げさに言ったらそういうふうに私は感じましたといふ。できれば市の方が住んで、そしたらもっと市のこともよくわかるし、市の方でやっていくといふのが理想的なのではないかといふことです。
- I委員　非常にそれは賛成だと思います。職住接近ではないですけれども、自分が住んでいるところの自分の運営は自分のといふのになっていただけると非常に武蔵野市はもっと住みやすくなったりするのかなといふのは。
- 事務局（企画政策室長）　実態をお話すると、独身のときは、Gさんがおっしゃられたようにアパートに住んでいるのが多いんですけれども、世帯を持って子供ができると、それも結構近場なんです、小金井とか、西東京とか、三鷹でちょっと歩くところだと住めるんです。武蔵野市内といふのはそのぐらい世帯用の住宅を確保するといふのは大変な部分だといふのは、先ほどのGさんの話と同じなんですけれども、結果として。
- J委員　昔公団といふんですか、よくわからないんですが、そういうのがあれば、そういうほうに外部の人が来るよりも市の方が、一つの案として優先させて、優遇するわけではない、そういう方法ももっと市のためにも考えればいわけですね。そういう案もありますよといふことで、いろいろな人の意見が、こういうふうな会議に出ていらっしゃる方といふのはやはりよくこういうことにかかわっていらっしゃる方とか、ちょっと関心を持ってみようと、みずからいらっしゃる方が多いんですが、たまたまこういうのを友達に見せると、全く関心がないわけではなくて、ああいうといふことで、では自分の税金はといふふうに考えていた。では、本当にそうやって別に、一応社会の論理的に持てる者がこういうふうにといふのは当然なんでしょうけれども、でも、それよりもでもそうしたほうがいいとか、皆さんそういう意見がどんどん出てくるわけです。別にこういうふうに、この人が住みたいから、ではその人に補助してあげましょうといふのは、基本的に言うとなんかそういうことをするよりも、こっちがいいとか、いろいろな意見があるわけですから、よりよい武蔵野にするためにといふのは、実際住んでいらっしゃる

る方がよく考えていらっしゃるわけですし、たくさん税金を払っている方であればそれなりに考えていらっしゃると思いますので、もっとその辺もそういう意見もありますよということが、そういうふうな人たちの意見をどういうふうにお聞きになるのかというのは、確かに疑問に思ったんですけども。

○事務局（企画政策室長） 冗談ですけども、買い物は市内でするようによく指導しています。

○事務局（企画調整課長） 5日間の議論で、あともう10分足らずになってきまして、まとめのテクニカルな議論ですとか、詳細な文章構成につきましてはまたいろいろご議論いただくとして、この公開の場でぜひ最後に言っておきたいことがありましたらぜひとも、もう少しなくなっておりますけれども、いかがでしょうか。

○E委員 二、三確認したいことがあるんですけども、先ほど事務局の方から、総論としてどうですかというお話をいただいて、その総論とは、3の3つの総論について、それについて確認なんですが、きょう問題提起がいろいろな方々から出て、それもまた反映する可能性はあるということで理解していいですか。

○事務局（企画調整課長） もちろんです。

○F委員 たった5回で、しかもこういう突然お目にかかった方ばかりですから、5回でまとめるというのは基本的に無理だと思うんです。ここに書いておられるように、発言は併記する。これで当然だと思うんです。ただし、これを策定委員会でどう使っていただくかということで終わるというのが原則ですね。幸い二、三人はつながってくださるそうですから、その方はこの各論をよく頭に入れていただいて、この報告書が策定委員会に移るんですね。これには皆さんが言われた各論で、おたくがまとめられるときに、小さい話を消しているのがあるでしょう。それは策定委員会がどうとるかわかりませんから、小さな各論も、行をちょっと落とすか何かで結構ですから、各論を付記しておくとか。そんな程度で策定委員会にお任せするというのが我々の役目だと思っているんですけども、いかがなんでしょうか。

○事務局（企画調整課長） 議事録をごらんになっていただくとわかると思うんですが、今、F委員のおっしゃった各論について入れると物すごい量になってまいります。それぞれ議論のきっかけとしているいろいろなことをおっしゃったことですから、いろいろあるうかと思いますが、少しその辺は選定、枝の剪定みたいなことをしないと。

○F委員 それはおたくで選んで結構です。市がまとめるのですから、それを選ばれてやられたらいい。

○事務局（企画調整課長） ですから、余り個別具体的な話というよりも、観点としてまとめてきたつもりでございますので、それにつきましてまたこの点が足りないというのはぜひ事務局にお寄せいただいて、もう少し良くしていきたいとは思っております。

○F委員 もしできれば策定委員会の何らかの情報、簡略化した議事録でも送っていただけると、あれどうなったのか、これを無視しているのかと、相談に行けるとか、ありますから、そのぐらいいはしていただけますか。

○事務局（企画調整課長） 基本的に策定委員会は公開ですので、ツールとしてはホームページというふうに限られてしまうんですが、基本的には議事録は掲載するルールになっていますので、皆様につきましてはこの会とも関係がございますので、そのようにさせていただきたいと思います。

いかがでございましょうか。

3. その他

○事務局（企画調整課長） それでは、報告書のまとめについてはまたご議論いただくとしまして、本日が第5回でございますから、5回のご議論本当にありがとうございました。それから、傍聴の方々に

つきましては何度も足をお運びいただいた方もいらっしゃいまして、本当にありがとうございます。傍聴の方からいただいたご意見も毎回このように配布をさせていただきましたように大事にしていきたいと思っておりますので、感謝申し上げます。それでは、これで第5回、全5回の武蔵野市の将来を考える市民会議を閉じさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

（了）